



そらべあ便り

新聞バッグづくりで3Rを学ぼう



お便り募集

今回のそらべあ便りはいかがでしたか。よろしければご感想や、励ましのお手紙、写真などをお寄せください。いただきましたお便りは、ペンネームでご紹介させていただくことができます。氏名(ふりがな、ペンネーム)、住所、メールアドレスを明記の上、Eメール、または郵便でご応募ください(写真は撮影したシチュエーションを明記してください)。

メール: info@solarbear.jp

郵便: 〒107-0052 東京都港区赤坂 5-2-39

円通寺ガデリウスビル 1F

ストラテジックシナリオグループ内

そらべあ基金事務局 「お便り」係



事務局のつぶやき

みなさん、こんにちは。そらべあ基金の矢名葉です(「やなば」って読みますよ)。レポートでも紹介しましたエコバッグのワークショップですが、実はその裏側は大変でした。前日は夜遅くまで準備に追われていて、ほとんど寝てないままイベントに突入! 初の司会役だったのですが、不慣れということもあり、参加したみなさんに、新聞バッグの良さについてしっかりとお伝えできませんでした。ぜひ次回は、そらべあや環境のお話などを交えて語っていきたいと思います。この秋から年末にかけて、さまざまなイベントを予定しています。ぜひホームページをチェックのうえ、遊びに来てくださいね。ではまた、次号でお会いしましょう!

そらべあスマイルプロジェクト これまでの実績

そらべあ発電所寄贈先

岩槻パンビ保育園(埼玉県さいたま市)
かしの木保育園(群馬県富岡市)
大立寺幼稚園(佐賀県神埼市)
滝尾幼稚園(熊本県御船町)
東江幼稚園(東京都葛飾区)
春の町保育園(福岡県北九州市)
山手台保育所(兵庫県明石市)



2009年8月31日現在 全7基

そらべあサポーターズクラブ

そらべあ基金の活動は、「そらべあサポーターズクラブ」会員のみなさまのご支援により支えられています。

- プレミアムサポーター: ソニー(株)、ソニー損害保険(株)、ソニーマーケティング(株)
- オフィシャルサポーター: シチズン時計(株)
- サポーター: ソニー企業(株)、(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント、(株)ホンダソルテック、(株)ほんやら堂、(株)毎日新聞社
- 応援団: 16社
- 個人・ファミリーサポーター: 106名

(2009年8月31日現在)

そらべあ便り vol. 4

編集: 加藤聡

デザイン: 古谷臨

NPO 法人そらべあ基金

〒107-0052 東京都港区赤坂 5-2-39

円通寺ガデリウスビル 1F

ストラテジックシナリオグループ内

TEL: 03-3584-2133 FAX: 03-3586-8010

事務局からのお知らせ

DVD を楽しみながらエコ

そらべあ基金サポーターのソニー・ピクチャーズ エンタテインメントが、持続可能な社会実現のために取り組んでいるのは、DVD ケースの見直しです。DVD シリーズ「CINE STYLE @ SONY PICTURES」で採用された新型ケースは、側面を型抜くことで、プラスチックの使用量を削減。軽くなったことで、輸送時のCO2 排出量も減らすことが見込めます。これらのケースには、そらべあのロゴシールが貼付されていますので、ぜひ DVD ショップで見つけてみてください。



学園祭で使われる電気がそらべあグリーン電力に

そらべあ基金の理念を、学生ならではのアイデアで世に広める活動を行っている「そらべあ基金学生事務局」では、日本風力開発の協力のもと、日本初となる、そらべあグリーン電力証書の「学園祭向け共同購入」を企画しました。共同購入に参加した大学は、学生や来場者に向けて、グリーン電力をアピールしていきます。この秋は、そらべあグリーン電力を使った学園祭に注目です!

参加大学および学園祭スケジュール

慶應義塾大学 矢上祭(10月10日、11日)

多摩大学 雲雀祭(10月30日、11月1日)

東京海洋大学 海鷹祭(11月6日~8日)

東京女子大学 VERA 祭(11月14日、15日)



そらべあタンブラーを持ってカフェへGO!

そらべあのタンブラーがバリエーション豊富に登場。お気に入りのマイタンブラーを見つけて、不要なゴミを減らしましょう。



タンブラー 280ml 1,470円

460ml 1,680円

お問い合わせ: 江戸川物産(株) TEL: 0568-33-3333 (代)

Shinzi Katoh Design ONLINE SHOP

http://www.edg.jp/shop/

夏休み親子向けワークショップ 「そらべあといっしょにつくろう！ しんぶんしのエコバッグ」



そらべあ基金では、全国の幼稚園・保育園に太陽光パネルをプレゼントするという活動のほか、絵本の物語などをとおして、子どもたちへの環境教育を行っています。今回、新たな試みとして、一般参加型のエコワークショップ「そらべあといっしょにつくろう！ しんぶんしのエコバッグ」を開催しました。

会場となった、東京・お台場のメディアージュは、夏休み期間中ということもあり、家族連れで大にぎわい。新聞バッグ作りにも、たくさんの小学生のみなさんにご参加いただきました。

材料となる新聞紙には、毎日新聞社が発行しているフリーペーパー「マイECO」を使用。表紙には動物のイラストが大きく描かれており、みなさん思い思いに新聞を選びます。

この日の講師は、新聞バッグを広める活動を行っている「NWSD（ニューズド）」の青山雄二さん。ちょっと難しい作業もあったなか、一つひとつでいねいに指導していただきました。

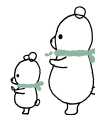
バッグ作りが完成に近づくと、それをお祝いするかのようには「そら」と「べあ」が登場。子どもたちは、できたばかりの新聞バッグを手に、そらべあとの記念撮影を行ったのでした。

古新聞をリサイクルして作る、世界に一つだけのエコバッグ。作る過程においても一切ゴミを出しません。参加者のみなさんには、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の大切さを感じていただけたのではないのでしょうか。

そらべあ基金では今後も、楽しみながらエコを体感できるワークショップを開催していく予定です。

NWSD <http://www.nwsd.jp/>

そらべあ 企業サポーター探訪



そこにあると「ほっ」とするものをあなたへ

思わず「ほっ」とするような商品を次々と世の中に送り出している、ほんやら堂。そのなかには僕たちのグッズも！
商品企画部の成田さんに、癒しグッズ開発の秘密を教えてもらったよ。

株式会社ほんやら堂 商品企画部 成田高俊さん

当社を単なるキャラクター雑貨のメーカーだと思われる方には意外かもしれませんが、ほんやら堂は、「自然との共生」「自然の持つ力」をコンセプトに、商品開発を行っています。もともとは、社長の自然好きが高じてスタートした会社なんです。珍しい社名も、新潟県の十日町で作られる雪のかまくらのことを「ほんやら洞」と呼ぶことに由来します。その自然の情緒的な雰囲気や音の響きを、社長が気に入って採用しました。

創業当時は、自然に囲まれたリゾート地向けの商品や、間伐材を使った商品を中心に展開してきました。やがてリゾートブームが終わると、都市部の雑貨店に向けた商品づくりにシフトしていきます。この時、始めた炭製品は、今の癒しグッズのベースとなっています。

現在は、クッションやまくらといったリラクゼーショングッズをメインに販売していますが、こうしたグッズは、思わずほっとするような瞬間を届けてくれます。我々が提供したいのは、モノではなく、心の部分。ターゲットとして想定する、25歳～35歳の忙しく働く女性に対して、「ゆとり」「安らぎ」「やさしさ」を伝えたいと考えています。ところが、実際に購入されているお客さまの年齢層を調べてみると、10代から40代まで平均しているんですね。もしかしたら、ほんやら堂は、社会全般に「癒し」を届けていると言えるのかもしれない。

column 注目の環境・CSRのキーワードをピックアップ！

「三方(さんぼう)よし」

2005年、ほんやら堂は群馬大学医学部と共同で、「介護なまけたろう」の開発を行いました。

これまで看護・介護用品といえば、機能性がかりが重視され、無機質なものが多かったなかで、同社は、キャラクターを採用することにより、かわいらしく、温かみのある介護用品を生み出すことに成功しました。こうしたデザイン性にあふれた介護商品が増えていくことによって、障害を持つ人々でも一般の人と同じように、自分の好きなものを選ぶことができるようになります。誰もが暮らしやすい社会へと近づくのです。

介護なまけたろうのような、企業、消費者、社会それぞれに応える商品を作ること。これは、江戸時代の近江商人の考え、「三方よし」とつながります。三方よしとは、商売に



今年の6月20日、21日には、東京・渋谷のショールームで、ファンの集い「ほんわかフェスタ」を開催しました。イベントでは、秋冬商品の発表と新商品の即売会、サンプル商品のオークション大会などが行われ、2日間で400名弱の方にご来場いただきました。直接、こんな商品が欲しいというような提案をいただくなど、ファンとスタッフの交流の機会となりましたね。そのほか、自作の服を着せたキャラクターを持参する方もいて、当社のキャラクターが非常に愛されているなど感じました。

こうしたお客さまとの交流や、定期的に行っている産学連携での商品開発(コラム参照)は、積極的に行っていききたいですね。ファンの方々の熱い意見や、学生さんのやわらかな発想にはいつも驚かされています。

ほんわかフェスタでは、オークションの売り上げの一部をそらべあ基金に寄付しました。当社は、サポーター企業としてそらべあ基金を応援していますが、これも両者の自然・環境への想いが合致したことから実現したのだと思います。今後は、チャリティー活動以外にも、より具体的なエコ活動を行うことも計画しています。



「介護・リハビリサポート なまけたろう 折りたたみ枕」(販売終了)

ファンによるイラストが描かれた落書きコーナー



において、「売り手」と「買い手」だけではなく、その取引が「世間(社会)」全体の幸せにつながるものでなければならないという意味です。

現在、企業の社会的責任(CSR)が盛んに言われていますが、同様の考えが古くから日本にはあったのです。しかも、三方よしでは、本業を通して社会的責任を果たしていくことを説いているなど、寄付や援助を中心とする欧米のCSR活動にはない特徴があります。

企業は、売り手よし(GOOD)、買い手よし(GOOD)、世間よし(GOOD)を実践してはじめて、お客さまに喜ばれる商品(GOODS)を届けることができると言えるのかもしれない。